



H.C.R. 2014
H.C.R. セミナー
報告

2014.10/3

福祉施設における 感染症の知識と対応

～知っておきたい感染症対策のポイント

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細やかな配慮は欠かすことができません。特に高齢者や障害者は感染すると症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められます。

本講座では、高齢者・障害者施設における日常の感染症に関する知識と予防、発症後の対応策について学びました。

講師



小坂 健氏
東北大学大学院
歯学研究科
副研究科長

感染症のリスクに対する考え方

介護・福祉施設におけるリスクをゼロにすることは大変難しいものです。たとえば転倒のリスクで考えてみると、家でよく転ぶ人が、介護・福祉施設では転ばない、ということはありません。感染症も同じで、家で感染することがあるのですから、施設でもありうると考えるべきです。問題は、利用者とそのご家族が「施設に入れば安全」と考えている場合がある点です。介護・福祉施設でリスクを減らすことを目指すのは当然ですが、ゼロにすることは不可能であることを念頭に置きましょう。そして入所者のご家族を含め、全員でリスクを共有することが、感染症を問わずさまざまな場面で必要です。

インフルエンザの特徴と対策

インフルエンザは病院内でさえ集団発生が起こるので、介護・福祉施設で感染を防ぐのは難しいことです。予防の基本は、マスクの着用やうがい、手洗いです。さらにワクチンの使用もお勧めします。ただし、それだけで本当にインフルエンザを防げるのかどうかは、まだわからない点が多くあります。なぜならインフルエンザウイルスには、鼻粘膜や口腔内に付着すると数分間で感染するという特徴があるからです。したがって、1時間ほど外出をし、帰宅してうがいを行ったとしても、必ずインフルエンザを防げるとは言い切れないのです。とはいえ、うがいはその他の病原体を減らす効果はありますので、決して無駄ではないことをお伝えしておきます。

新型インフルエンザの特徴と対策

一般的な季節性インフルエンザは、気道上皮という部分にしか感染しません。ところが新型インフルエンザは、全身感染症を起こし、ひどいときは肺から出血を起こすことがわかっています。ほとんどの人が免疫を持っていないため拡大しやすいばかりか、重症化する可能性が高く、致死率は5割以上となっています。そこで、もし介護・福祉施設で新型インフルエンザが流行した場合、どのように事業を継続するのかを

考えておく必要があります。たとえば地震などの自然災害では、被害は発生した地域だけですので、他の地域から支援に行くことができます。しかし、新型インフルエンザが流行すれば、感染の恐れがあるため、どこからも支援に行けない状況になるかもしれないのです。たとえばマスクなどの備品は備蓄している施設も多いかもしれませんが、問題は人手をどうするかです。職員の半分が感染して出勤できなくなれば、事業に支障をきたす施設も出てくると思われまので、しっかりと対策を練っておきましょう。

ノロウイルスの特徴と対策

ノロウイルスは予防の困難な感染症です。集団発生を起こす原因としてもっとも多いのは、人から人への感染です。困ったことに、感染した人の中には自覚症状が出ない人もいます。下痢や嘔吐などの症状が出て、治まったように見える人でも、やはり約2週間はノロウイルスを排出し続けているのです。長い人では1カ月を過ぎても、感染するのに十分なウイルスが大量に排出されていることがあります。したがって、ノロウイルス感染者の排せつ物や吐しゃ物を処理する場合は、必ずマスク、手袋、ガウン、メガネや、可能であればゴーグルをし、次亜塩素酸1000ppmを使用してください。冬の季節は、急に嘔吐した人がいたら、まずはノロウイルスを疑ってください。今は検査も簡単に行うことができます。

病原体によって異なる感染経路

感染経路には大きく分けて次の3つがあります。

① 経気道感染

「空気感染」と「飛沫感染」があります。対策としては、マスクの着用を徹底することです。一般的に販売されているマスクで構いません。咳や痰が2週間以上続いている入所者がいる場合は、結核も疑い、検診や医師による検査を行いましょう。

② 経口感染

「食品媒介感染」と「糞口感染」があります。予防方法は手洗いを励行することです。排泄物を扱う場合は手袋やガウンを着用しましょう。調理場では

HACCP（ハサップ）を徹底することが大切です。

③ 経皮感染

「接触感染」と「性行為感染」があります。対策は、通常の石けんやアルコール系消毒薬による手洗いを徹底することです。手袋やガウンを使用した後は、必ず取り替えましょう。性行為感染の防止にはきちんとコンドームを使用することが大切です。

標準予防策

上記3つの感染経路と対策を覚え、実践すれば感染症対策としては合格点です。このような対策を「標準予防策」といいます。「誰もが何らかの感染症を持っている可能性があると考えて、すべての利用者に対して感染の可能性のあるものへの接触を最小限にすることで、利用者・スタッフ双方の感染の危険を少なくする方法」です。

手洗いと消毒剤について

手洗いだけで新型インフルエンザが防げるかどうかは、専門家によって意見の分かれるところですが、やはり手洗いには一定の効果が認められています。ここで難しいのが、手洗いは30秒以上かけて行うのが望ましいとされている点です。まず、目に見える汚れが手に付いた場合は流水で洗い流してください。そのような明らかな汚れが付着していなければ、ノロウイルス以外のほとんどの病原体はアルコール消毒で除去することができます。こうした手洗いと消毒をきちんと行っていれば、基本的にはたいいていの感染症を防ぐことができます。ただし、ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸を使用してください。

施設運営のために必要なこと

最近の介護・福祉施設はユニットケアや個室化が進んでいます。個室は感染症対策に適している一方で、人の目が届きにくいともいえます。こうしたリスクにどう対応していくかが今後の課題となっていくでしょう。